

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

3月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 2418件（前月比0.2、前年比0.5）でした。昨年の10月から本年度の1月まで連続して増加していましたが、2月に減少に転じました。3月は2月より著しく減少しました。前年比は0.5となり、例年より早く収束に向かっているようです。

小児科定点

（全体傾向）

5247件（前月比0.36、前年比0.65）でした。インフルエンザ2418件（前月比0.2、前年比0.5）、感染性胃腸炎1767件（前月比1.2、前年比1.1）が80.0%を占めています。前月比ならびに前年比は大きく減少しており、インフルエンザの減少が影響しています。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 123件（前月比1.4、前年比2.7）。昨年の9月をピークとして以後は1月までは連続して減少していましたが、2月は増加に転じました。3月は連続して増加しています。また、昨年より高い値となっており、今後の動向に注意が必要です。
2. 咽頭結膜熱 : 73件（前月比0.6、前年比0.7）でした。前月比、前年比はともに減少しています。また、3月は例年より低い値となっています。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 382件（前月比1.4、前年比0.8）でした。前月比は増加していますが、例年並で推移しているようです。水俣13.5、有明13.4が高くなっています。
4. 感染性胃腸炎 : 1767件（前月比1.2、前年比1.1）でした。昨年の11月からは大きな変動はなく推移しています。菊池75.0、山鹿63.5、有明56.6が特に高くなっています。
5. 水痘 : 40件（前月比1.3、前年比0.4）でした。前年比は0.4と減少しており、例年より低い値となっています。山鹿3.0が高くなっています。
6. 手足口病 : 76件（前月比1.9、前年比1.3）でした。昨年の7月をピークとして、以後は連続していましたが、3月は増加に転じています。今後の動向に注意が必要です。宇城7.0が高くなっています。
7. 伝染性紅斑 : 7件（前月比1.8、前年比0.4）でした。低い値で推移しています。
8. 突発性発疹 : 130件（前月比1.0、前年比1.0）でした。大きな変動はなく推移しています。
9. ヘルパンギーナ : 24件（前月比1.3、前年比0.8）でした。昨年の7月をピークとして、以後は1月まで連続して減少しました。その後は大きな変動がなく例年並に推移しています。
10. 流行性耳下腺炎 : 18件（前月比1.1、前年比0.1）でした。前年に0.1となり、昨年より大きく減少し、例年より低い値で推移しています。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数47件（前月比1.0、前年同月1.2）と報告すべき増減はありません。熊本32件、菊池4件、有明9件、天草2件の報告です。年齢別では20～39歳にピークがありますが、50歳代、70歳以上の発症も目立ちます。

STD定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症：

報告数54件（前月比1.0、前年比1.4）で、前月比では同数、前年比では増加しています。男女別は、男性に34件と多く見られました。年齢別は、男性は20～29歳に17件と多く、女性は20～24歳に11件と多く見られています。地区別は、熊本が42件と圧倒的に多く、次いで有明、宇城各4件、八代2件、菊池、御船に各1件でした。

2. 性器ヘルペスウイルス感染症：

報告数18件（前月比0.6、前年比1.2）で前月比では減少、前年比では増加しています。男女別は、男性に10件とやや多く見られました。年齢別は、男性は20～64歳、女性も20～64歳と幅広く見られています。地区別は、熊本が12件と多く、次いで有明、宇城に各2件、菊池、八代に各1件でした。

3. 尖圭コンジローマ：

報告数11件（前月比1.4、前年比1.2）で、前月比、前年比とも増加しています。男女別は、男性に8件と多く見られています。年齢別は、男性の20～24歳に3件と多く、女性は20～29歳に見られました。地区別は、熊本7件と多く、次いで宇城2件、菊池、御船に各1件でした。

4. 淋菌感染症：

報告数21件（前月比1.9、前年比0.8）で、前月比では増加、前年比では減少しています。男女別は、男性19件と圧倒的に多く見られました。年齢別は、男性は20～49歳に18件と多く見られ、女性は25～29歳、55～59歳に各1件見られました。地区別は、熊本18件と圧倒的に多く、次いで菊池、御船、宇城に各1件でした。

基幹定点

（月報分）

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：

報告数16件（前月比 0.6、前年同月比 0.4）でした。13件（81%）が70歳以上と多くなっていました。14歳以下は0件でした。阿蘇2件（2.0）、人吉2件（2.0）、熊本7件（1.4）が多くなっています。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：

報告数3件（前月比 1.0、前年同月比 0.5）でした。先月よりここ3年で最も少ない推移です。熊本2件（0.4）、有明1件（1.0）の内訳です。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告数0件（前月比、前年同月に同じ）でした。前年1月以降の報告は4月の1例のみと少なくなっています。

（週報分）

1. 細菌性髄膜炎：

報告数1件（前月比 1.0、前年同月比 0.3）でした。昨年は3-5月にピークがありましたので要注意です。

2. 無菌性髄膜炎：

報告数4件（前月 +4、前年同月比 4.0）でした。0～1歳が2例、65歳以上が2例です。夏場に増加しますので今後要注意です。

3. マイコプラズマ肺炎：

報告数2件（前月比 0.3、前年同月比 0.2）でした。前年の春から減少傾向が続いています。熊本2件（0.4）の報告です。年齢は1～4歳が1件、5～9歳が1

件でした。

4. クラミジア肺炎： 報告数0件（前月、前年同月に同じ）でした。前々年12月に1例報告があった以降は報告がありません。

5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：
報告数12件（前月比 2.4、前年同月比 0.9）でした。増加傾向であり、またここ3年1月～7月に多い傾向があり、今後要注意です。

届け出対象感染症

1類感染症	： ありませんでした。	
2類感染症	： 結核	25件
3類感染症	： ありませんでした。	
4類感染症	： レジオネラ症	1件
5類感染症	： アメーバ赤痢	2件
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1件
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
	後天性免疫不全症候群	1件
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
	水痘（入院例）	1件
	梅毒	3件
	百日咳	6件